

第43回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール

岩手県コンクール表彰式・全国表彰伝達式

第43回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール岩手県コンクール表彰式ならびに全国表彰伝達式が1月23日、ホテルルイズ（盛岡市）で入賞者とその家族、JA関係者など約60人が参加し行われました。当JA管内からも毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、稲作体験やお米についての思い出などを思い思いに表現した力作が出品されました。今回の特集では、県コンクール表彰式・全国表彰伝達式の模様と全国コンクールで入賞した作品を紹介します。

このコンクールは、小中学生の皆さんに稲作について学びを深めてもらい、ごはんの重要性を理解してもらうことを目的に実施しています。今回県コンクールには、作文が94点、図画が184点の作品応募がありました。全国コンクールでは、当JAからの出品作品より作文部門で優秀賞1点、図画部門で文部科学大臣賞1点、学校奨励賞1校が選ばれました。



入賞者は、前列左3人目から及川小春さん（興田中）、佐藤瑞実さん（興田中）、平沢榎澄さん（一関小）、千葉心遥さん（滝沢小）、学校奨励賞 興田中学校の佐々木和江教諭

当JA管内の小中学校から応募のあった作文と図画は、どれも素晴らしく全国や県においても優秀な成績を収めました。

コンクール結果（敬称略）

【作文部門】

◇全国コンクール

優秀賞

一関小学校 6年 平沢 榎澄

◇岩手県コンクール

岩手県知事賞

一関小学校 6年 平沢 榎澄

【図画部門】

◇全国コンクール

文部科学大臣賞

興田中学校 1年 佐藤 瑞実

学校奨励賞

興田中学校

◇岩手県コンクール

岩手県知事賞

興田中学校 1年 佐藤 瑞実

一般社団法人家の光協会北海道東北普及文化局長賞

滝沢小学校 2年 千葉 心遥

優秀賞

興田中学校 1年 及川 小春

学校奨励賞

興田中学校

【作文部門】

全国コンクール

優秀賞

岩手県コンクール 岩手県知事賞

お米の可能性

一関小学校 6年

平沢 榎澄^{かすみ}



ようやく入賞した実感がわいてきました。入賞できてうれいす。これからもおじいちゃんの田んぼを手伝ったり、大好きなお米をたくさん食べたいです。

祖父の家の田んぼには、何の作物も植えられていない場所があります。幼稚園の時に、「田んぼに、どうしてお米を植えないの。」と祖父に聞



いたところ、「国からお米を作ってはだめだと言われているからだよ。」と教えてくれました。普段から口数の少ない祖父でしたが、ことさらに何も話そうとしなかったことを印象深く覚えていました。

昨年、学校の社会科の学習で、祖父がお米を耕作できなかった理由が国の減反政策による事を知りました。しかし、昭和四十年代から長年続けられた減反政策は、今年度から無くなり、お米を自由に耕作できるようになりました。これにより、お米の生産量が伸びるチャンスが大きくなると思います。

私はお米を毎日食べても飽きません。その理由は、白米を固めにたいたり、軟らかめにたいたり、麦や雑穀を混ぜてたいたり、米粉パンやおもちにしたりと、様々なバリエーションを楽しみながら食べているからです。そのため、ご飯の時にお米を食べないと、食事をした気になりません。そんな大好きなお米の生産量が減少していかないように、どうしていけば良いのか、どんな可能性があるのか、私なりに二つ考えてみました。

第一に考えられることは、現在の世界の和食ブームを利用し、販売数を増やすことです。

最近、テレビや雑誌では、和食の人気について報道されています。フランスなどのヨーロッパの国々や中国では、和食が日常の食生活の一部となっているとのこと。そうした国々に対して、和食ブームという絶好のチャンスを活かし、世界最高品質と言われる日本米の輸出を増やすことを、行政などと協力しあい、進めていくことです。日本米の良さと安全性を世界中の人々に知ってもらうことで、販売してもら

える国と販売数を増やしていけるのではないかと思います。

二つ目は、日本酒の世界進出と一緒に、日本酒の原料である米の品質向上、改善を図ることです。そうすることでおいしい日本酒を作り、世界中の人々から日本酒がみとめられ、販売数の増加が期待できます。

最近、元サッカー選手の方などが、日本酒の世界販売を実施し、世界の日本酒にしようと頑張っています。日本酒の原料はお米です。世界進出に伴って、外国人の味覚に合うお米の品質改善を行うことで、販売数の拡大に貢献できるのではないかと思います。

【図画部門】

全国コンクール 文部科学大臣賞
岩手県コンクール 岩手県知事賞

興田中学校 1年 佐藤 瑞実 みずみ



入賞の報告をいただいたときとてもうれしかったです。背景の色や配置にこだわりながら、友人を描きました。家が農家で農業を特別意識したことはありませんでしたが、家の仕事にも目を向けていきたいです。



近年、お米の消費量は減少傾向にあります。本気で考え、今までにないアイデアを出せば、消費量を増加させる方法はたくさんあると思います。なぜなら、日本のお米は農家の方々の努力の結晶だからです。そのような日本のお米を誇りに感じ、毎日おいしく食べていきたいです。

「ごはん・お米とわたし」
作文・図画コンクール

このコンクールは、作文と図画部門があります。

県コンクールに先駆け、JAいわて平泉コンクールを行っています。表彰式を一関地方産業まつり農業祭で行うほか、出品作品全てを県コンクールに出品し、県の審査を経て優秀な作品が全国コンクールへ推薦されます。

当JA管内の小中学校へは、毎年2月頃に当JAのコンクールの募集要領をお送りいたしますので、積極的な取り組みをお願いします。

◇スケジュール

- 2月中旬 JAいわて平泉コンクール 募集要領送付
- 6月中旬 県コンクール募集要領送付
- 8月下旬 作品締め切り
- 9月上旬 JAいわて平泉コンクール 審査
- 10月中旬 県コンクール一次審査
- 11月下旬 全国コンクール審査
- 1月 全国・県コンクール表彰式